

新型コロナウイルス迅速検出法に関する緊急要望

本県では、2月15日国内初の感染者の確認された後、大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」への対応を求められる中、感染経路が判明しない感染も広がり、県民の不安は増大し、切迫した状況に直面している。

一方、県では、京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区等を中心とするヘルスケア・ニューフロンティアの取組の中で、平成28年度から、神奈川県衛生研究所と理化学研究所による、外来感染症の防疫に資する技術開発研究を支援し、デングウイルスやジカウイルス等の感染症を、スマートアンプ（SmartAmp）法を利用して検出する方法に取り組んできた。

そして、新型コロナウイルス感染症の国際的な広がりを踏まえ、県からの要請により、神奈川県衛生研究所と理化学研究所において、スマートアンプ法を利用した新型コロナウイルスの検出方法の研究開発を進めたところ、同法を利用した新型コロナウイルスの検出試薬を開発した。

今後は、さらなる改良を行うとともに、当該検出法を活用した実証研究を、関係行政機関、研究機関や大学及び医療機関等と連携して開始する予定である。

この研究成果は、現時点では、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」に基づく体外診断用医薬品等の承認を得ていないため、開発した試薬をいち早く現場で使えるようにする必要がある。

こうした状況を踏まえ、本県として下記の事項を国に強く要請するものである。

記

- 薬機法に基づく体外診断用医薬品等の承認が早期に行われるようお願いしたい。

令和2年2月27日

内閣官房長官 菅 義偉 様
厚生労働大臣 加藤 勝信 様

神奈川県知事 黒岩 祐治